

川辺川ダム推進します。

今現在球磨川上流域および川辺川上流は急な地形です。最近では温暖化の為に気温の上昇等で雨が降る時には、非常に強く短時間で洪水警報が出てしまいます。今は、耐えているダム等もこの雨のせいで決壊してしまえば、大惨事は、おそれられません。平成16-17年度に起きた事が起きれば、又あの惨劇を繰り返す事になりかねません。

そんな事がもしおこると言われたら心配で、雨が降ればビクビクと脅えなければならぬのでしょいか。それならば、心配元となるダムの決壊、又は、流水の抑制が出来れば、確実に平穏な生活がおくれるのではないでしょいか。もしそうする事が出来たら、雨が急に降ってこようか安心出来ると思います。

今のダムでは、この異常気候の中常識範囲で作られたる為決壊する事は、十分に考えられます。ならば、これを防ぐ為になんらかの対策が必要です。それならば、今建設段階の川辺川ダムを建設し、平穏無事を毎日がおくらねれば、それこそした事はありません。ですので川辺川ダムを推進します。このダムが出来れば、安心した生活

かおくれ、雨が降るとおひえな事がな
く楽しくお世です。ダム建設大原夏
し部。

川
辺
川
ダ
ム
に
つ
い
て

すが備る事対に境よがに治怖のら堤い軒よの時はが道光あ思まで武
 。、こです恩にうっ対策対味本でのあまかはま既っの景つたまた国のは私
 現ま川とする恵対。て策対味本で段さで。、えは水を水い水力えが私2大先
 状ず床をが配をす勿いを策をの、のりにまき想、し勿も対所通9がの二
 を川の第、慮受る論る実をの、のり浸たた像、心す引た論、岸ど過号水二十
 見辺浚一まをけ配ダ川行実施居住人所にでか、つよ地はと、し私、び移すには午
 た川深とずはれい、設ダのれる、や、球磨か程しけいて、住宅んと洗前水れの時
 率ダをすは、て、行のあべのい村さ、度たの、対で恐はしすくまじがあ頃出た息
 直ム合べ、住は多現をムでる、の、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 なわき住は多現をムでる、の、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 思早せで民なく、の川う建れきと、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 い期たす。生な人辺に設ば、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 で着事。命いた川あを、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 す工業ダ命いた川あを、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 。をがム、のち並た急既、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 おべと財はのび、既、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 願ス護産、既、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 いト岸を当得球磨、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 しでの守然権磨、思よ、さ、の、雨私岸はるはしすくまじがあ頃出た息
 ます整このに川環しあ々に恐流ぐ、でがし民数に水。い、がとけの

私は、球磨村に住んでいます。

ダム の 討論会にも行ったことがあります。

ダム反対の人達が討論会では、環境が大事だとか緑のダムとかいろいろなことを言っていました。

たしかに、自然は大切です。でも、その前に人の命とか家のほうが大事です。

ダムを造ると川が死んでしまうように言われますが、市房ダムのある球磨川にも魚は住んでいます。

いちばん川を汚していたのは人間です、球磨川上流で下水道の整備が始まってからはずいぶん水はきれいになったと思います。

また、アユ掛けもやりますが、アユが釣れないのは川にアユがいないからで、稚魚が充分に放流されれば釣れるはずで

ずいぶん前には、放流数が多く良く釣れた年がありました。

球磨村は、水害常習地区です、はやくダムを造り安全な球磨川にしてほしいとおもいます。

道	が	で	40	之	害	え	早	下	七	地	に	4000	れ	良	る	た	が	た	40		
路	が	五	年	ほ	の	見	く	流	い	区	し	人	る	く	な	商	良	が	40	前	川
は	川	木	の	い	い	え	頭	の	ま	の	こ	た	人	い	店	い	出	年	小	川	
寺	辺	の	年	い	い	こ	地	人	せ	行	き	の	工	と	な	と	来	前	学	川	
足	川	事	目	か	か	こ	大	吉	人	事	ま	こ	が	思	い	思	こ	に	生	が	
だ	は	が	を	か	い	こ	橋	白	五	出	し	す	へ	え	か	う	良	作	だ	川	
か	五	木	知	か	人	仕	作	代	木	来	た	が	る	る	事	道	思	書	こ	内	
こ	木	が	事	出	と	事	り	も	は	ど	く	人	位	し	ム	災	が	事	ま	川	
人	血	ま	の	こ	子	有	村	事	う	な	工	が	位	し	ム	災	が	事	ま	川	
は	流	さ	一	こ	供	村	道	さ	う	な	が	へ	で	た	回	害	良	こ	悪	川	
夢	た	の	で	う	年	こ	を	作	こ	し	る	す	、	あ	が	水	な	い	川	て	
か	で	知	き	の	配	、	作	り	し	行	た	と	い	年	と	か	た	こ	思	川	
こ	す	事	め	出	の	ん	、	か	し	く	、	う	と	か	た	な	へ	工	う	川	
こ	五	ほ	な	と	平	村	ケ	し	ま	こ	地	う	事	は	う	40	な	場	来	川	
	木	し	く	て	均	自	夕	だ	五	さ	は	祭	う	日	年	な	こ	出	来	川	
何	に	く	て	均	自	然	イ	五	木	う	か	か	に	は	ム	こ	で	来	色	川	
然	信	な	い	う	の	こ	が	ヤ	木	が	か	か	に	は	ム	こ	で	来	色	川	
は	人	の	の	こ	五	木	こ	サ	し	大	人	体	に	は	ム	こ	で	来	色	川	
体	だ	事	さ	な	木	こ	こ	サ	し	大	人	体	に	は	ム	こ	で	来	色	川	
だ	事	さ	な	木	こ	こ	サ	し	大	人	体	に	は	ム	こ	で	来	色	川	と	
か	有	、	こ	こ	木	こ	こ	サ	し	大	人	体	に	は	ム	こ	で	来	色	川	
こ	有	、	こ	こ	木	こ	こ	サ	し	大	人	体	に	は	ム	こ	で	来	色	川	
	り	東	こ	こ	木	こ	こ	サ	し	大	人	体	に	は	ム	こ	で	来	色	川	
	き	京	こ	こ	木	こ	こ	サ	し	大	人	体	に	は	ム	こ	で	来	色	川	

『川辺川ダム事業に関する意見書』

私は、川辺川ダム建設に賛成します。

その理由としては、地球温暖化によると思われる異常気象です。日本各地での局地的な集中豪雨は、年毎に被害も増加し、特に今年の夏は各地で甚大な被害が発生しております。豪雨による河川の増水は、予測できない水位上昇を見せています。このような事故、災害から生命財産を守るためには、環境保全と河川整備、ダム建設等の治水事業、情報伝達等のソフト面の整備などの総合的な対策が重要と思います。自然の『緑のダム』も有効なのかもしれないが、これほどまでの異常気象のなかで、自分たちの生命、財産を守りながら未来の子供達に、少しでも安心して暮らせる未来を残していくために、総合的な対策を推進します。

川辺川ダム事業に対する意見

私は、あさぎり町に住んでいます。

川辺川ダム建設事業予定計画の必要性が見直されストップされている状態ですが、人吉球磨を災害から守る為にも、是非 川辺川ダム建設事業を進めてほしいと思います。

他県では、異常豪雨での被害がテレビで、報道されていますが、人事ではない現実が目の前におきています。

過去 球磨川流域でも、大きな洪水が発生し、浸水や土砂崩れ等により、死傷者・行方不明者・家屋損壊、流出、浸水といった大災害がありました。

この様な災害が二度とおきない様 早目の対策を御願いできたらと思います。

川辺川ダム問題に關して

去る七月二十九日の公聴会に出席し、賛否両論の意見を聞きました。過去のダム討論会にもほとんどかかさず出席しておりますが、その当時からずっと気になっていることがあります。それはこの問題に対する報道のあり方についてです。記事の論調がダム反対に偏っているように思えてなりません。地域に密着した報道を行うことはしごく当然のこととて、この問題を大きく取り扱うことに異論はありません。ただ、報道の仕方によっては眞実はひとつしかないものと、見るあるいは読む角度によっていくつもの事実として映ってしまう怖さがあります。そしてこのことがひとつの眞実さえもねじ曲がって伝わってしまうのです。例えば世論調査にしても尋ね方次第で結果に大きな変化が生じます。「本当にダムは必要ですか？」と訊くか、「本当にダムはいりませんか？」と訊くのとでは、ずいぶんと印象が違ってきます。今のマスコミ各社は、特に地元紙と筆頭に前者の訊き方をしていきます。偏向報道とまでは言わないにしても、もう少し公正・公平な報道をマスコミ各社に望みます。

知事におかれましてはマスコミの圧力に屈することなく、流域住民の、また流域住民の代表者の意見に耳を傾けていただきたいと思ひます。住民の意見を集約するため住民投票の実施も考えられますが、それではこの四十年間苦渋の選択とさせられた五木村、相良村の労苦は報われません。住民から選ばれた選良達はほとんどがダム推進であることをお忘れなく。

川辺川ダム問題について

私の父は五木村、母は水上村の出身で今も健在です。幸いにして両親ともダムによる移転はありませんでした。しかし過去の水害で親族を亡くし、自らも九死に一生の目にあっているのが水害の恐ろしさを実体験として持っています。特に父はまだ自分で車を運転できた頃は毎月のように水没予定地を訪れ、美しい景色をビデオに収め「この景色が変わるのは忍びないけど、あの恐ろしさを思えば人命の尊さに勝るものはないなあ。」と感慨深げにいつも語っていました。

自然の力は偉大で強力なものです。その中で人間は自然と共生しなければなりません。自然に手を加えることは決して望ましいことではないかもしれませんが、人命を守るための最善の手段としてダムは必要であると考えます。計画から40年以上経過し、五木村・相良村村民への長年にわたる苦労に報いるためにも、逆に40年経過したことにより当時よりもさらに進んだ最先端の技術を駆使し、立派なダムを完成してほしいと思います。同時に冷え込んだ球磨地域の経済を活性化させるため、五木・相良の地域振興策とダム完成後の観光資源策も併せて計画・予算化されることを、知事に切に要望いたします。

○川辺川流域の住民の生命と財産を守る
為の大事業であり川辺川ダムは本当に
必要不可欠なものであることは言うまでも
ありません。

又、人々の観光の要である球ヶ川下りにしては
水が大事は事は皆さん十分わかっているはずで
す。利水、発電は主として、大雨時の雨量の調節
という極めて大事は役割もありませんので
どうぞ川辺川ダム推進に大いに期待
する者の一人です。

筋のダムも1111でしめ。しかし大雨をコントロール
する事はとりて無理です。

川辺川ダムが現実な事にはる様に皆さんと
団結して推進しようではありませんか。

私への友達は川辺川ダム建設予定地である相峯村野々脇地帯に住んでいました。野々脇には川辺川を渡る吊橋があり、吊橋の横には小さな店があり、日用雑物が売ってあり、毎日を暮すには、何の不都合もありませんでした。吊橋の上流には川辺川清流の湧き出しがあり、友人と一諸に魚をとり、遊びに毎日、毎日が楽しい日々が続いておりました。野々脇地帯は本当に住みやすい所でありました。所が友達が野々脇には、川辺川ダム建設の予定が建設者でまとまりつつあるのだと友達から話しを耳にしました。それから何度となくダム建設の話し合いがなくなり、友達は、昼は山仕事、夜はダムの建設の話し合いと毎日、毎日が何んて私と達が、野々脇地帯が、ダム建設を望んでいるのか、いなか、早急に判断せねばならないか、唯が唯がと思いつめている毎日でした。でも友達は、今迄に住みながら野々脇地帯は反対しても、五木村がさるおのならばダム建設に賛成したそうである。台替地は川辺川工事事務所横の台地でした。長年住みながら住宅も建設者への売買がまとまり台替地に移住した事となり、建設者への売買により台替地には、リッパな住宅が新築されました。でも一年後、建設者よりいたたいた金額、全部住宅の新築に使用したので固定資産税が支払なくなり、住宅をえばなし、八代の友達の所に身をよせています。野々脇地帯の人々は、あつりにも大金を手にし、今からは羨望が本音と思つたのでしょうか。友達と今でも野々脇地帯で暮らして居る住宅の後を見にいています。ダムのせいでなるのは野々脇の住民だけではない、川辺川清流に何ってダムを早急に完成して下エいとせんでいいます。

「川辺川ダム事業に関する意見」

近年地球温暖化による異常気象が騒がれる中、つい最近では6月21～22日にかけての大雨により人吉市・球磨村などで氾濫危険水位を超え、人吉・八代地区で33戸の家屋浸水や1000世帯・2600人近くに避難勧告が出される等、天気予報・気象情報の予想を上回る早さ規模で氾濫・災害が発生したのは記憶に新しいと思う。他にも18年の洪水16, 17の台風時にも洪水災害が起きていて取り上げればきりはない。又洪水と言えれば夏期の現象のように思えるが今年1月の大雨のように季節外れに発生しており今までの常識では計り知れない。今後雨量が多くなるだけでなく頻度もかなり多くなると予想される。以上の事から梅雨期や台風などで大雨が降った際、川辺川を流れる一部をダムに貯め、流量を低減、調整し流域を洪水・氾濫から守るためダムは必要だと思えます。

他にはダムと言えば水力発電を思い浮かべま

ダム建設を推進、促進します。

五木村住民に対して

当初ダム建設を行うにあたって、五木村の住民はダム建設反対であったが、苦渋の決断でダム建設に賛成されたと思う。しかしその時、五木村民以外の人は、他人事のように考えられていたと思う。それを、今さらダム建設には反対と五木村以外の人が意見するのはおかしいと思う。反対するのであれば、当初計画の時にすべきである。現在一番ダム建設に関わってきた五木村民の人が賛成するのであればダム建設は行うべきである。

洪水から住民を守る

近年大洪水は起こっていないが、温暖化による洪水が世界各国で起こっている中、もし洪水によって被害が起こったなら何であそこまでダム建設を行っていたのにも思っても もう手遅れである。よって、早期着工を。

河床掘削案について

河床掘削案があるが、球磨川の河床を下げるのであれば、毎年工事が行われ、環境にもあまり良くないと思う。また、毎年梅雨の洪水によって河床がまた埋まると思う。それよりも、早くダムを建設し水量の調整を行ったほうが良い。

	互	残	あ	か		た	て	と	は	所		い	
だ	対	念	つ	れ	当	大	そ	い	か	に	私	た	前
ム	策	で	た		時	変	の	て	慣	住	は	だ	お
外	を	な	の	着	中	な	時	軒	れ	ん	子	さ	き
の	願	り	び	が	学	の	は	下	フ	で	供	ま	は
方	い	ま	す	え	子	は	ぎ	ま	こ	い	の	す	ぬ
法	い	せ	が	さ	年	が	テ	で	に	る	頃		き
で	た	ん		え	だ	水	で	フ	な	と	何		に
は	し	球	小	あ	つ	が	ぎ	か	フ	陸	度	人	し
	ま	学	学	り	た	引	な	る	て	の	も	吉	て
大	す	校	の	ま	の	い	か	大	い	孤	水	市	
雨		卒	せ	で	た	つ	で	水	ま	島	害	下	川
に		業	ん	す	後	た	命	で	し	に	逢	青	辺
対		の	で	が	の	始	命	か	た	る	い	井	川
処		住	し	何	末	を	落	ら		所	ま	所	だ
で		民	た	も	で	と	新	新	5	で	球		ム
き		が	ム	大	か	す	威	威	40	床	テ		賛
な		辛	が	事	も		の	家	年	下	川		成
い		い	何	な	球	て	の		の	浸	沿		の
と		思	よ	も	テ	い	家		は	水	の		意
思		い	り	の	川	た	ま		ち	と	新	の	見
い		を	も	は	に	で	で		よ	か	地	新	延
ま		し	惜	い	持	し	行		フ	床	と	地	べ
す		る	し	フ	フ	よ	き		と	上	い	と	さ
		い	く	ぱ	て	う	ま		違	少	う	い	せ
		様		い	い		し		フ	し	所	う	て

で	だ	今	道	取	今	く	そ	全	い	し	今	有	の	今	私	川
あ	か	緑	路	世	下	了	し	計	ま	力	山	り	も	山	は	辺
	ら	の	か	友	流	と	て	の	録	ぬ	に	ま	今	は	は	川
	ダ	ダ	ら	ら	の	ど	ダ	ま	の	い	は	せ	山	災	五	川
	ム	ム	10	ば	人	こ	ム	つ	タ	と	保	え	は	害	木	ダ
	を	を	0	今	の	か	を	社	ム	思	れ	元	崩	の	村	ハ
	作	作	山	山	全	が	作	会	を	い	力	の	壊	危	に	関
	り	る	に	は	命	崩	っ	を	夏	ま	友	現	寸	機	65	す
		は	入	有	財	壊	て	作	に	す	ど	因	前	に	了	了
	緑	50	て	い	産	し	ほ	ほ	は	今	あ	は	で	た	了	了
	の	年	見	い	を	も	い	て	今	緑	り	シ	す	山	了	了
	ダ	が	下	ま	守	お	と	ほ	の	の	ま	力	今	を		
	も	100	さ	す	る	お	言	し	ダ	ダ	ん	サ	私	よ		
	す	年	い	し	は	が	う	い	走	今	ル	の	の	に		
	め	は	一	は	ダ	た	の	ほ	今	私	の	被	山	思		
	て	か	見	ダ	た	い	ほ	今	の	の	害	に	は	い		
	い	が	り	し	い	除	今	大	山	山	に	よ	下	ま		
	っ	る	ま	が	体	大	大	雨	は	は	よ	る	草	す		
	て	で	せ	あ	で	雨	雨	大	5	5	も	の	が	そ		
	ほ	し	ん	り	大	大	大	園	%	%	の	の	ほ	え		
	い	う	で	ま	園	園	園	が	の	の	保	の	と	と		
	もの		す	せん	が	が	が	が	保	水	水	の	と	言		
			し	で	が	が	が	が	力	力	力	あ				

川辺川ダム問題について

下流地域の洪水対策にも一約をなすと考えます。

今まで使った費用を無駄にしないためにも、早期の完成を

お願いいたします。

川辺川ダム問題について

川辺川ダム工事のために、移転された五木村の方々や

国道の嵩上げなど費用をかけ完成しています。

たくさんのお金がかかっています。これらが無駄に

しないためにも早くダムを完成させてください。

この川辺川ダム工事のために、住み慣れた土地を離れ代替地に
移られた、五木村の方々の気持ちをしっかりと考え、
この事業を最後まで完成させる事はとても重要な事だと思います。
早期の完成をお願いします。

川辺川ダム事業に関する意見書

ダムの最大の問題点は、下流の安全のために、上流が犠牲となって、家屋移転などを強いられること。しかし、川辺川ダムの場合、水没地域の家屋移転は殆ど完了しているのだから、跡は実際にダムを造るだけ。今更中止したら、これまでの投資がムダになるのではないか。

川辺川ダム問題に関する意見について

水害は、とても怖い災害です。自分の住んでいる地域を守って
もらうためには、色々な公共事業が必要です。

川辺川ダム建設もその1つだと思います。

たくさんの意見が有り、判断が難しいところも有ると思いますが
県民の生命や財産を守る事が重要です。

川辺川ダムの早期完成をお願いします。